

令和5年度シラバス（国語） 学番 39 新潟県立正徳館高等学校

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店『現代の国語』				
副教材等	尚文出版『常用漢字ダブルクリア』、浜島書店『巻頭増補版 最新国語便覧』 第一学習社『作文・表現ハンドブック I』、同『II』				

1 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>進学、就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 論理的思考に不可欠な基礎的言語事項の習得を重視すると同時に、常用漢字の確実な習得を目指します。</p> <p>② さらに、それらを的確に表現し、積極的に他者とコミュニケーションを図る態度を育てます。</p> <p>③ その他にも、視覚的資料の読解や作文技術の向上を目指します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しんで自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>

4 評価の規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しんで自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>・小テストや各種考査</p> <p>・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</p> <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>・各種考査</p> <p>・授業中の発言や発表</p> <p>・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</p> <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>・授業中の発言や発表</p> <p>・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</p> <p>・感想文や振り返りシートの内容などから評価します。</p>

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	的確に伝える	5 「A 話す こと・聞く こと」	「設計図を最 初に渡せ！」 藤沢晃治 「伝わるよう に話す」	・主張を正確に把握する。 ・情報のまとまりや順序を考え、分か りやすく説明する。	a c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
	明日をひら く	5 「B 書く こと」	「考える技 術」 野矢茂樹	・どういうときに論理が必要か押さえ る。 ・これからの学校生活で考えたいこ と、その「下ごしらえ」は何かまとめ、 発表する。	b c	
5	魅力的に伝 える	5 「B 書く こと」	「伝える」先 にあるもの ジェーン・ス ー 「魅力的な紹 介文を書く」	・主張を正確に把握する。 ・表現や順序を工夫して魅力的な紹介文 を作成し、それを発表する。	a c	
	中間考査	2 「B 書くこと」		実施と返却	a、b	
	魅力的に伝 える	3 「A 話す こと・聞 くこと」	「工夫して 話す」	・内容と順序を工夫した上で、1 分間 スピーチを行う。	c	
6	要点をつか む	4 「C 読む こと」	「水の東西」 山崎正和	・具体と抽象、対比の関係を押さえる。 ・本文に基づき、日本文化の特色につ いてまとめる。	a b	
	文章の論理 をとらえる	5 「C 読む こと」	「動的平衡と しての生物多 様性」	・抽象的な概念を押さえる。 ・論理構成を意識し、本文を正確に捉 える。	a b	
	的確に伝 える	2 「B 書く こと」	「わかりやす く書く」	・箇条書きやナンバリングを活用して 文章を作成する術を学ぶ。	a	
	期末考査	2 「B 書くこと」		実施と返却	a、b	
7 ・ 8	意見を示す	5 「B 書 くこと」	「発想を広 げる」 「意見を書 く」	・さまざまな発想方法を学ぶ。 ・主張と根拠を明確にした意見文を書 いて発表する。	a c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
8 ・ 9	他者と交流 する	5 「A 話す こと・聞 くこと」	「他者を理 解するとい うこと」 鷺田清一 「目的に沿 った質問を する」	・筆者の考える他者理解を捉える。 ・知りたいことを知るための質問の仕 方を工夫し、実際にミニインタビュー をする。	b c	

	資料を駆使する	6 「C読むこと」	「安くておいしい国」の限界 小熊英二	・「安くておいしい日本」を止めるべきだと筆者が述べる理由を考察する。 ・国際観光客について、本文と資料から読み取ったことをまとめ、発表する。	b c	
10	中間考査	2「B書くこと」		実施と返却	a、b	
	資料を駆使する	4 「B書くこと」	「統計資料をもとに意見を書く」	・統計資料のデータを正確に読み取る。 ・主張を文章にまとめる。	a b	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
	作文技術を磨く	4 「B書くこと」	『作文表現ハンドブックⅠ』	・正しい語句を用いて、読みやすい文章を書く。	a	
11	情報を比較する	6 「C読むこと」	「空気を読む」 香山リカ 『個人』から『分人』へ 平野啓一郎	・二つの文章を正確に読む。 ・二つの文章の共通点、相違点をまとめる。	a b	
	作文技術を磨く	5 「B書くこと」	『作文表現ハンドブックⅡ』	・正しい語句を用いて、読みやすい文章を書く。	a	
	期末考査	2「B書くこと」		実施と返却	a、b	
12	他者を動かす	5 「B書くこと」	「説得力のある資料をつくる」	・効果的な表現や資料の提示の仕方を工夫する。 ・実際に企画書を書いて発表する。	a c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
		6 「A話すこと・聞くこと」	「資料を用いて発表する」	・発表の目的と内容に沿って、提示する情報を取捨する。 ・構成を工夫し、プレゼンテーションを行う。	b c	
1 ・ 2	主張を吟味する	4 「C読むこと」	「贅沢を取り戻す」 國分功一郎	・本文中のボードリヤールの言葉は、どのようなことを主張するための引用か考察する。	b	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
		4 「B書くこと」	「文章を読み取って主張を書く」	・香山リカ「空気を読む」を読み返し、若者のコミュニケーションについて、自分の考えを述べる。	a	
		6 「A話すこと・聞くこと」	「討論をする」	・論題に対して自説を明確にする。 ・自分の主張を支える根拠を探し、主張の信頼性を高める。 ・テーマに沿って実際に討論を行う。	a b c	
	学年末考査	2「B書くこと」		実施と返却	a、b	
2 ・ 3	考えを発信する	6 「A話すこと・聞くこと」	「結論を出すために話し合う」	・次年度の文化祭の催し物について、話し合っって結論を出す。	c	授業の取組 発表の様子

領域ごとの授業 時数合計	A「話すこと・聞くこと」 31 時間	B「書くこと」 49 時間	C「読むこと」 25 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

6 課題・提出物等

- ・各週の最初の授業で小テストを実施します。漢字は国語の基礎です。しっかりと準備して臨んでください。
- ・授業中に確認プリントや小テストを実施し、評価します。ノートや辞書を有効に活用してください。
- ・長期休暇中には課題を出します。必ず期限内に提出するようにしてください。

7 担当者からの一言

現代の国語は高校で学ぶ国語の基礎にあたる科目です。説明文や実用的な文章を読みます。それだけでなく、書いたり、聞いたり、話したり、話し合ったりします。この科目を礎として、次年度以降論理国語、国語表現が展開されます。どっしりとした土台ができるよう、さまざまな活動に対して誠実かつ意欲的に取り組むことを期待します。

(担当 久我かおる・石黒賢哉)

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	数研出版『新編 言語文化』				
副教材等	浜島書店『巻頭増補版 最新国語便覧』、筑摩書房『高校生のための古典ライブラリー 漢文名文選 故事成語編』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学、就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 主に情緒的な基礎的言語事項の習得を重視すると同時に、常用漢字の確実な習得を目指します。物語の展開を的確に理解した上で、自分の考えを確立させることを目指します。
- ② さらに、それらを的確に表現し、積極的に他者とコミュニケーションを図る態度を育てます。
- ③ その他にも、文法事項を学ぶことをとおして、論理的思考の素地を作ります。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しんで自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しんで自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テストや各種考査 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・各種考査 ・授業中の発言や発表 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・感想文や振り返りシートの内容 などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	【近現代】 地域の「ことば」	5 「C 読む こと」	「とんかつ」 三浦哲郎	・ 文学的な作品を読むのに必要な語句を学ぶ。 ・ 登場人物の行動から心情を推測する。	a b	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
	【古文】 古文の世界を楽しむ	5 「C 読む こと」	「児のそら寝」	・ 歴史的仮名づかいを学ぶ。 ・ 重要語句について、古典辞書を使って本文中の意味を調べる。 ・ 古文を学ぶ意義を知る。	a b c	
5	【漢文】 日本語の中に生きる漢文	4 「C 読む こと」	「言語文化と漢文」 「訓読の決まり」 「格言」	・ 日本語に残る漢文の影響を知り、身近な例を探して発表する。 ・ 訓読の決まりを学ぶ。 ・ 訓読文への改め方を学ぶ。	c a b	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
	中間考査	2 「B 書くこと」		実施と返却	a、b	
	【近現代】 詩歌を味わう	2 「B 書く こと」	「短歌」	・ 短歌を作って発表する。	c	
6	【近現代】 「ことば」を吟味する	4 「C 読む こと」	「舟を編む」 三浦しをん	・ 複数の辞書を用いて、辞書による語釈の違いを知る。 ・ 語句の意味を理解し、本文を正確に読む。 ・ 本文の記述をもとに、登場人物二人の性格についてまとめる。	c a b	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
	【古文】 現代にも生きる教え	4 「C 読む こと」	「ある人、弓を射ることを習ふに」	・ 物語を正確に読む。 ・ 動詞の活用を学ぶ。 ・ 作者の主張を理解し、説明する。	a b c	
	期末考査	2 「B 書くこと」		実施と返却	a、b	
7 ・ 8	【古文】 現代にも生きる教え	4 「C 読む こと」	「丹波に出雲といふ所あり」	・ 動詞の活用表を作る。 ・ 物語を正確に読む。 ・ 上人の失敗の原因を話し合う。	b a c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
8 ・ 9	【漢文】 故事と成語	4 「C 読む こと」	「漁夫の利」	・ 書き下し文に改め、正確に音読する。 ・ 物語の内容を理解し、故事成語の現代の意味を調べる。 ・ 「漁夫の利」の身近な例を考え、発表する。	a b c	
	【近現代】 受け継がれる古典	5 「C 読む こと」	「羅生門」 (前半) 芥川龍之介	・ 場面や登場人物の心情の変化を表現に即して読む。 ・ 動物を使った比喻表現の効果を考える。	a b	
10	中間考査	2 「B 書くこと」		実施と返却	a、b	

	【近現代】 受け継がれる古典	5 「C読むこと」	「羅生門」 (後半) 芥川龍之介	・本文中に四度出てくる「にきび」の持つ意味について考察する。 ・タイトルの持つ意味について話し合う。	b c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
11	【漢文】 漢詩を味わう	4 「C読むこと」	「春暁」 孟浩然 「春望」 杜甫	・漢詩の形式や表現について理解する。 ・作者の心情や描かれた情景を想像し味わう。	a b	
	期末考査	2「B書くこと」		実施と返却	a、b	
12	【古文】 和歌が作り出す世界	2 「B書くこと」	「古今和歌集」 「新古今和歌集」	・それぞれの歌について、どのような心情、感動が歌われているか考える。 ・好きな歌を一首選び、その紹介文を作る。	b c	授業の取組 課題の提出 小テスト 確認プリント 発表の様子
1 ・ 2	【漢文】 論語のことば	3 「C読むこと」	「論語」	・対句や同じ表現の繰り返しが用いられた箇所注意到して音読する。 ・孔子について学ぶ。	b a	
	【古文】 昔と変わらない人の心	5 「C読むこと」	「伊勢物語」 筒井筒	・物語を正確に読む。 ・それぞれの歌について、そこに込められた心情を把握する。 ・この話における和歌の役割について考え、発表する。	a b c	
	学年末考査	2「B書くこと」		実施と返却	a、b	
3	【古文】 先人を思う旅	4 「C読むこと」	「おくのほそ道」 松尾芭蕉	・長岡にある文学ゆかりの記念碑を調べ、発表する。	c	授業の取組 発表の様子

計 70 時間 (50 分授業)

領域ごとの授業 時数合計	A「話すこと・聞くこと」 0時間	B「書くこと」 14時間	C「読むこと」 56時間
-----------------	---------------------	-----------------	-----------------

6 課題・提出物等

- ・授業中に確認プリントや小テストを実施し、評価します。ノートや辞書を有効に活用してください。
- ・長期休暇中には課題を出します。必ず期限内に提出するようにしてください。

7 担当者からの一言

言語文化は高校で学ぶ国語の基礎にあたる科目です。近現代以降の物語、つまり小説だけでなく、古文と漢文も学習します。漢字や語彙、慣用句、簡単な古典文法も勉強します。この科目を礎として、次年度以降、古典探究が展開されます。古典探究を選択しないにしても、現在の日本語をよりよく理解する上で古文と漢文は不可欠です。じっくりと腰を据えて、粘り強く取り組むことを期待しています。

(担当 久我かおる・石黒賢哉)

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	清水書院『私たちの公共』				
副教材等	浜島書店『最新図説 公共』、清水書院『私たちの公共 ワークノート』				

1 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題について考察する際に必要な知識や概念、理論を理解するとともに、必要な情報を適切に収集・分析する技能を身に付ける。
- (2) 現実の諸課題の解決に向けて、価値判断や意思決定をする際に必要な知識や概念、理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

2 指導の重点

1年次に公共を履修することから、以下の項目を指導の重点に置く。

- ① 2年次以降の地歴・公民科の科目を理解する際に求められる基本的な知識や概念、理論の習得を目指します。
- ② ①で習得した知識や概念、理論を基に、現代社会の諸課題に関する因果関係を論理的に説明できるようになることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代の諸課題について考察する際に必要な知識や概念、理論を理解し、必要な情報を適切に収集・分析する技能を身に付けている。	・現実の諸課題の解決に向けて、価値判断や意思決定をする際に必要な知識や概念、理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や議論する力を身に付けている。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・現代の諸課題について考察する際に必要な知識や概念、理論を理解し、必要な情報を適切に収集・分析する技能を身に付けようとしている。	・現実の諸課題の解決に向けて、価値判断や意思決定をする際に必要な知識や概念、理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や議論する力を身に付けようとしている。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業における取組 (板書等含む)、発表や対話的活動の取組 ・ レポート (意見文・振り返り含む) などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	第1章 社会で生きるということ 1 私たちと青年期 2 私たちと社会 3 人間の社会と文化	4	・青年期や発達課題に関する知識を習得し、青年期における個人のあり方について考察し、表現する。 ・世界宗教や日本の思想に関する知識を得る。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	授業における取組
5	第2章 みんなが幸せな社会とは？ 1 よく生きるとは？ 徳 2 幸せな社会とは？ 功利主義 3 幸せな社会とは？ 正義の原理 Activity1生命と科学技術の問題と倫理 Activity2環境問題と人間の活動	5	・先哲の思想に関する知識を習得し、人間として「よく生きること」「幸せな社会とは何か」「正義とは何か」について考察し、表現する。 ・生命倫理及び環境問題といった価値観や利害が対立するテーマについて探究し、その結果を表現することをとおして、テーマに関する理解を深める。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組
5	第3章 公共的な空間における基本原理 1 個人の尊重と社会 2 民主主義、立憲主義 3 法はなぜ必要なのか Activity3社会のルールについて考えよう！ How to 公共1「候補者男女均等法」の是非について「平等」の観点から考察する	5	・基本的人権及び民主主義、立憲主義、法の支配について理解し、民主主義社会における基本原理が必要とされる理由について考察し、表現する。 ・感染症対策及び男女の平等といった価値観や利害が対立するテーマについて探究し、その結果を表現することをとおして、テーマに関する理解を深める。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組
6	第1章 私たちの生活と法 1 個人と法 Activity4消費者の権利と義務 2 平等に生きる権利 3 自由に生きる権利 4 人間らしく生きる権利 5 新しい人権	6	・法の種類に関する知識を習得し、個人の自由・権利及び責任・義務について理解している。 ・消費者の権利と義務に関する知識を習得し、消費者として必要な態度について考察し、表現する。 ・基本的人権に関する知識を習得する。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組
7	第2章 私たちの生活と政治 1 日本の統治機構 2 国会のしくみとはたらき 3 内閣のしくみとはたらき 4 行政機関としての国の役割と体制 5 裁判所のしくみとはたらき 6 紛争解決のしくみ Activity5模擬裁判をやってみよう！	12	・日本及び世界の統治機構に関する知識を習得する。 ・国会のしくみに関する知識を習得し、国会の役割について考察し、表現する。 ・内閣及び行政機関のはたらきに関する知識を習得し、行政機関の役割について考察し、表現する。 ・裁判所及び裁判のしくみに関する知識を習得し、事例を参考に紛争解決について考察し、表現する。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組
8・9	7 地方自治の役割と現状 8 選挙のしくみ 9 政党と政治参加 10 民主政治の原理と世論 Activity6地域課題を解決する取り組み		・地方自治に関する知識を習得し、地方自治の役割や現状について考察し、表現する。 ・民主政治のしくみや課題に関する知識を習得し、政治参加のあり方について考察し、表現する。		
10	第3章 平和主義と日本 1 日本の平和主義と憲法 Activity7平和を守ろう！ 2 日本の外交と平和な社会の構築 Activity8世界平和について考えてみよう！ How to 公共2「憲法改正」の是非について、幸福、平等、公正の観点から考えよう	6	・憲法第9条に関する知識を習得し、自衛隊や在日米軍の課題について考察し、表現する。 ・日本の安全保障に関する知識を習得し、日本を取り巻く安全保障の課題について考察し、表現する。 ・「憲法改正」の是非について、幸福・平等・公正の観点から考察し、表現する。	a	定期考査・レポート
				b	定期考査・レポート
				c	レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組

第1部
公共の扉

第2部
よりよい社会の形成と参画

11	第4章 私たちの生活と経済 1 私たちの生活と経済活動 2 市場経済のしくみ 火が卵を決める要因 Activity9市場経済の機能と限界 3 企業の経済的役割 Activity10職業選択/キャリア教育 4 国民所得と私たちの生活 5 政府の経済的な役割 6 税金と国債を考える 7 金融機関の役割 Activity11 金融のはたらき 8 労働と雇用 よりよいはたらき方をめざして Activity12 雇用と労働 9 社会保障制度の意義 Activity13財政・租税の役割/社会保障	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の原理や思想に関する知識を習得し、経済学的な視点から社会的事象を考察し、表現する。 ・企業の役割に関する知識を習得し、企業のあり方について考察し、表現する。 ・日本経済が発展する過程を理解し、日本経済の現状や課題について考察し、表現する。 ・国民所得・財政・金融に関する知識を習得し、日本経済の現状や課題について考察し、表現する。 ・労働基本権や労働三法などの労働法規に関する知識を習得し、日本の労働環境について考察し、表現する。 ・社会保障制度の理念及びしくみに関する知識を習得し、日本の社会保障制度のあり方について考察し、表現する。 	a b c	定期考査・レポート 定期考査・レポート レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組						
						12	第5章 私たちの生活と国際社会 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際機関 3 平和な国際社会をめざす 4 グローバル化する社会 Activity14経済のグローバル化と相互依存 5 発展途上国の経済成長と地域的な経済統合 6 持続可能な国際社会 Activity15国際社会で貢献しよう! How to 公共3水をめぐる問題 SDGsを参考として、日本の立場(個人・国家)でどのような解決策を考えられるだろう	8	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治や集団安全保障体制に関する知識を習得し、国際社会の抱える政治的な課題について考察し、表現する。 ・国際経済の理論や南北問題、地球環境問題に関する知識を習得し、国際社会の抱える経済的な課題について考察し、表現する。 	a b c	定期考査・レポート 定期考査・レポート レポート・授業における取組・発表や対話的活動の取組
2 ・ 3	第3部 持続可能な社会を創る										

6 課題・提出物等

- ・授業における取組を評価する材料として授業ノートの提出を定期考査毎に行ってもらいます。
- ・レポートの提出を求めることがあります。

7 担当者からの一言

「公共」は現代の社会事象を考察する際に必要な見方・考え方を習得し、活用する科目です。2年生以降の社会系教科の基礎となる知識や概念の習得にも役に立ちます。社会のしくみや社会の課題について考察し、自分なりの意見を持つことができるようになります。

(担当：猪股 博一)

教科(科目)	数学(数学 I)	単位数	4 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	啓林館『新編数学 I』				
副教材等	啓林館『ステップアップノート数学 I』				

1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 指導の重点

中学校までに学んできた数学を復習しながら、社会生活を送る上で必要と思われる数学的な考え方、知識を得ることができるようにする。計算法則や記号の使い方を理解し数学を楽しく学ぶことができるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 5	数と式	25	多項式 実数	多項式とその加法・減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算		
	定期考査	1			a, b	定期考査の分析
6 7 8	2次関数	30	1次不等式 関数とグラフ 2次関数の最大・ 最小	不等式の基本性質 不等式とその解 絶対値を含む方程式・不等式 関数 2次関数のグラフ 2次関数の決定 2次関数の最大・最小 最大・最小の応用	c	振り返りシートの 分析
	定期考査	1			a, b	定期考査の分析
9	集合と命題	15	2次関数と方程 式・不等式 集合と命題	2次方程式 2次関数のグラフと x 軸の共有 点 2次不等式とその解 集合 命題と集合 逆・裏・対偶	c c	振り返りシートの 分析 振り返りシートの 分析
	定期考査	1			a, b	定期考査の分析
10 11	図形と計量	23	鋭角の三角比 三角比の拡張 正弦定理と余弦定 理 図形の計量	直角三角形を用いた三角比の定 義 三角比の相互関係 半円と座標を用いた三角比の定 義 三角比の相互関係 正弦定理 余弦定理 図形の面積 図形の計量	c	振り返りシートの 分析
	定期考査	1			a, b	定期考査の分析

12	データの分析	30	データの整理と分析 統計的探究プロセス	度数分布表とヒストグラム データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関と散布図 相関関係 相関と因果関係 仮説検定の考え方	c	振り返りシートの分析
	定期考査	1			a, b	定期考査の分析
3	探究学習	12	数と式 2次関数 集合と命題 図形と計量 データの分析	式の値の計算の工夫 絶対値を含む方程式・不等式のいろいろな解法 グラフの平行移動・対称移動 定義域が変化するときの最大・最小 絶対値を含む関数のグラフ 2次方程式の解の存在範囲 背理法の応用 三角形の決定 三角形分割に基づく図形の面積 空間図形における計量 データの散らばり具合の指標 PPDAC サイクルの利用	c	振り返りシートの分析

計 140 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 毎週に学習した範囲の週末課題を課します。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

授業を大切にしましょう。教師の話をよく聴き、その後練習問題に取り組みましょう。学んだ内容を理解しているかどうかは、練習問題が解けるかどうかでわかります。分からないことはそのままにしないで、授業中や放課後等に質問して理解できるように努めましょう。公式の暗記・使い方を覚えるだけでなく、その公式を導き出す過程を理解することも大切です

(担当：於島 靖、近藤 浩造)

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	新編 生物基礎 (東京書籍)				
副教材等	新課程 ニューサポート 新編生物基礎 (東京書籍)				

1 学習目標

<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象や生命現象に対する興味や関心を高めることを目指します。 ・視聴覚教材を用いて、視覚に訴える授業を行い、科学に対する興味や関心を育てます。 ・探究心、科学的な見方、思考する力を養うため、観察、実験、実習をできるだけ多く実施します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけようとしている。	生物や生物現象を対象に観察、実験などを行い、問題を見いだす観察、情報の収集、調査、データの分析・解釈など科学的に探究する力を身につけるようとしている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決使用する態度など、科学的に探究しようとする態度を示そうとしている。

4 評価基準と評価方法

	評価は次の観点からおこないます。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけようとしている。	生物や生物現象を対象に観察、実験などを行い、問題を見いだす観察、情報の収集、調査、データの分析・解釈など科学的に探究する力を身につけるようとしている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決使用する態度など、科学的に探究しようとする態度を示そうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・観察、実験、グラフでの表現の観察 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認 ・授業中の発言、発表などの観察	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の態度や取組の観察 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認 ・授業中の発言、発表などの観察
	などから評価します。	などから評価します。	などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
---	-----	------	-----	------------	-------	------

4 ・ 5	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー	8	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 副教材 演習プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性 生物の共通性 細胞の特徴 生体とATP 酵素のはたらき 呼吸と光合成 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中間考査(考査の分析) 提出物(記述の点検) 授業の取組(記述の確認) 授業の取組(行動の確認)
6 ・ 7	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成	16		<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子 DNAの構造 DNAの複製と分配 タンパク質 タンパク質と遺伝情報 細胞の分化と遺伝子 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 1学期期末考査(考査の分析) 提出物(記述の点検) 授業の取組(記述の確認) 授業の取組(行動の確認)
8 ・ 9	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ	12		<ul style="list-style-type: none"> 体内循環 神経系による情報遺伝 内分泌系による情報遺伝 血糖濃度の調節 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 2学期中間考査(考査の分析) 提出物(記述の点検) 授業の取組(記述の確認) 授業の取組(行動の確認)
10 ・ 11	2章 免疫のはたらき	16		<ul style="list-style-type: none"> 免疫のしくみ 免疫の応用 免疫とさまざまな疾患 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査(考査の分析) 提出物(記述の点検) 授業の取組(記述の確認) 授業の取組(行動の確認)
12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性 結章 生物基礎と私たち	18		<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの植生 植生の遷移 遷移とバイオファーム 生態系における生物の多様性 生態系における生物間の関係 生態系と人為的攪乱 生態系の保全 	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 3学期学年末考査(考査の分析) 提出物(記述の点検) 授業の取組(記述の確認) 授業の取組(行動の確認)

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- 各考査終了後、副教材・演習プリントの提出があります。
- 実習を行った際には、レポート提出があります。

7 担当者からの一言

テストが苦手とあきらめることなく何度も副教材・演習プリントを繰り返しやれば、生物基礎が理解できるようになります。また、教科書の単語を覚えるだけでなく、周りの自然もよく見て下さい。そこには教科書に載っていたことが現れていることが多くあります。新しい発見に感動する心を忘れなければきっと理科が好きになるはずです。(担当：佐藤 綱雄)

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけようとする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

- ・ 授業前後の移動や着替えを早くし、チャイムスタートを目指します。
- ・ 頭髪を整えるとともに体操着や靴を正しく着用し、規律正しくかつ安全に授業に参加する態度を育てます。
- ・ 大きな声で点呼や体操を行うことを目指します。（号令に合わせて体操、ストレッチができるようになることを目指します。）
- ・ トレーニングを毎時間実施し、基礎体力の向上を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・ 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・ 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 各種目の技能テストや記録の計測 ・ ファイルやワークシート（提出や記入状況等） などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 ・ ファイルやワークシート（振り返りや提出状況等） などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 ・ ファイルやワークシート（振り返りや提出状況等） などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法	
4	オリエンテーション 集団行動	3	整列、移動、 列の増減等	・1年間の学習活動について理解する。 ・集団行動がスムーズにできるようにする。	b	活動への取組	
	体づくり運動	6	体ほぐしの運動 体力を高める運動	・健康の保持増進や体力の向上を図る。自己の体力、生活に応じた課題を持ち、様々な運動を行う。	b c	ワークシート 活動への取組	
5	陸上競技部	6	短距離走 (100m・200m)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目の特有の技能を高める。	a	記録の計測	
			中距離走 (800m・1500m)		b	活動への取組	
			c		ワークシート		
6	陸上競技	9	中距離走 (800m・1500m)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目の特有の技能を高める。	a	記録の計測	
			跳躍(走幅跳)		b	活動への取組	
			投てき(砲丸投)		c	ワークシート	
7	球技 (ゴール型)	4	バスケットボール	個人的技能(パス、ドリブル、シュート) ・安定したボール操作ができるようにする。 個人的技能(サーブ、各種ストローク) ・ゲームの基礎となる個人的技能を身に付ける。	a	技能テスト	
	球技 (ネット型)		卓球		b	活動への取組	
	体育理論 (スポーツの発祥と発展)		2		スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ	c	ワークシート
8 9	球技(ゴール型)	1 2	バスケットボール	個人的技能(パス、ドリブル、シュート) ・安定したボール操作ができるようにする。 個人的技能(サーブ、各種ストローク) ・ゲームの基礎となる個人的技能を身に付ける	a	技能テスト	
	球技(ネット型)				卓球	b	活動への取組
					c	ワークシート	

10	陸上競技	1 2	長距離走	<ul style="list-style-type: none"> 自己に適したペースを維持して、長い距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。 	a b c	記録の計測 活動への取組 ワークシート
11	球技（ネット型）	1 2	バドミントン バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> 個人的技能（サービス、各種ストローク） ゲームの基礎となる個人的技能を身に付ける。 個人的技能（パス、レシーブ、トス、スパイク） 安定したボール操作ができるようになる。 	a b c	技能テスト 活動への取組 ワークシート
12	球技（ネット型）	8	バドミントン バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> 個人的技能（サービス、各種ストローク） ゲームの基礎となる個人的技能を身に付ける。 個人的技能（パス、レシーブ、トス、スパイク） 安定したボール操作ができるようになる。 	a b c	技能テスト 活動への取組 ワークシート
	体育理論 （スポーツの発祥と発展）	2	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピズムとオリンピックの価値、パラリンピックの意義について理解する。 ・スポーツが経済活動に果たす役割について理解する。 	a b	評価問題 ワークシート
1	球技（ゴール型） 球技（ネット型）	1 2	バスケットボール バドミントン バレーボール 卓球	<ul style="list-style-type: none"> 個人的技能（パス、ドリブル、シュート） 個人的技能（サービス、各種ストローク） 個人的技能（パス、レシーブ、トス、スパイク） 個人的技能（サービス、各種ストローク） 	a b c	技能テスト グループ活動への取組 ワークシート
2 3	球技（ゴール型） 球技（ネット型）	1 5	バスケットボール バドミントン バレーボール 卓球	<ul style="list-style-type: none"> 個人的技能（パス、ドリブル、シュート） 個人的技能（サービス、各種ストローク） 個人的技能（パス、レシーブ、トス、スパイク） 個人的技能（サービス、各種ストローク） 	a b c	技能テスト グループ活動への取組 ワークシート
	体育理論 （スポーツの発祥と発展）	2	スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの高潔さを脅かす要因、スポーツを破壊する行為について理解する。 ・スポーツにおける環境、どのように環境と調和していけばよいかについて理解する。 	a b	評価問題 ワークシート

計 105 時間（50 分授業）

6 課題・提出物等

- ・ 実施種目によって記録用紙等を提出する場合があります。
- ・ 各学期ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。

7 担当者からの一言

体育は、単に「足が速い」とか「バスケットボールがうまい」など運動能力や技術の高さだけでは評価は高くなりません。欠席をせず、みんなと協力し、誰でもできることを一生懸命授業に取り組むことが必要となります。また、「やらなければならないこと」は必ず最後までやってもらいます。妥協せず全力で取り組みましょう。体育の授業を通し、自分の限界に挑戦し、コミュニケーション能力を高め、人間力を高めてもらいたいと思います。

(担当：野崎尚史、平野淳一、飯田拓郎)

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

- ・ 授業開始前に教科書、ノートを準備し、授業者の説明をしっかりと聞く態度を身につけることを目指します。
- ・ 板書をきちんとノートに写す態度を身につけることを目指します。
- ・ 保健用語の理解と読み書き取りの習得を目指します。
- ・ 現在及び将来の生活において、健康及び安全の課題に直面した場合に、的確な思考、判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動選択できる能力の習得を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ ファイルやワークシート（確認や提出状況等） などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 ・ ファイルやワークシート（確認や提出状況等） などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 ・ ファイルやワークシート（振り返りや提出状況等） などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	現代社会と健康	2	1 健康の考え方と成り立ち	健康についての多様な考え方、健康の成り立ちとその要因について理解する。	a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		2	2 私たちの健康のすがた	わが国における健康水準の向上、健康問題の変化について理解する。	b	活動への取組 (観察)
5	現代社会と健康				c	ファイルやワークシート (振り返り等)
		2	3 生活習慣病の予防と回復	生活習慣病について呼称の由来や病例を説明することができ、また、生活習慣病の予防について理解する。		
6	現代社会と健康	1	4 がんの原因と予防	がんの発生メカニズム、発がん物質、また、発がんの原因となる行動を知り、その予防と治療法について理解する。	a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		1	5 がんの治療と回復	がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療について理解する。	b	活動への取組 (観察)
		2	6 運動と健康	生活習慣病について呼称の由来や病例を説明することができ、また、生活習慣病の予防について理解する。	c	ファイルやワークシート (振り返り等)
	期末考査	1			a	評価問題
					b	提出物の確認
7	現代社会と健康	2	7 食事と健康	健康的な食生活の重要性と意義、健康的な食生活習慣の形成について理解する。	a	ファイルやワークシート(取組状況等)
		2	8 休養・睡眠と健康	健康からみた休養・睡眠の意義、健康からみたよりよい休養・睡眠のとり方について理解する。	b	活動への取組(観察)
					c	ファイルやワークシート(振り返り等)

8 9	現代社会と健康	1	9 喫煙と健康		a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		2	10 飲酒と健康	飲酒による健康への短期的および長期的影響、飲酒開始の要因と社会問題、飲酒による健康被害を防ぐさまざまな対策について理解する。	b	活動への取組 (観察)
		1	11 薬物乱用と健康	薬物乱用や薬物依存による健康への悪影響、薬物乱用開始の要因と社会問題、薬物乱用の防止と対策について理解する。	c	ファイルやワークシート (振り返り等)
10	現代社会と健康	1	12 精神疾患の特徴	精神疾患の発病要因と主な症状について理解する。	a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		1	13 精神疾患の予防	精神疾患を予防する方法や早期発見のために必要なことについて理解する。	b	活動への取組 (観察)
		1	14 精神疾患からの回復	精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要かについて理解する。	c	ファイルやワークシート (振り返り等)
11	現代社会と健康	1	15 現代の感染症	感染症は、時代や地域によって、社会環境や自然環境の影響を受け、発生や流行に違いがみられることを理解する。		
		1	16 感染症の予防	感染症予防の原則を理解し、感染症予防のための社会的な取り組みと、個人がおこなう対策について理解する。		
		1	17 性感染症・エイズとその予防	性感染症・エイズについて理解するとともに、予防するための個人の対策や社会の対策について理解する。		
	期末考査	1			a	評価問題
					b	提出物の確認

12	現代社会と健康	1	18 健康に関する意志決定・行動選択	意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因、健康的な意志決定・行動選択を実現する工夫について理解する。	a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		1	19 健康に関する環境づくり	健康づくりを支える環境、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについて理解する。		
1	安全な社会生活	1	1 事故の現状と発生要因	交通事故の現状とその要因について理解する。	b	活動への取組 (観察)
		1	2 安全な社会の形成	安全のために必要な個人の行動やすべての人たちの安全を確保するために必要な環境整美について理解する。	c	ファイルやワークシート (振り返り等)
		1	3 交通における安全	交通事故防止における個人の取組みと交通環境の整備、交通事故における責任について理解する。		
2 3	学年末考査	1			a	評価問題
					b	提出物の確認
	安全な社会生活	1	4 応急手当の意義とその基本	応急手当の意義やその手順について理解する。	a	ファイルやワークシート (取組状況等)
		1	5 日常的な応急手当	日常的なけがの応急手当、熱中症の応急手当について理解する。	b	活動への取組 (観察)
		1	6 心肺蘇生法	心肺蘇生法の原理と意義、心肺蘇生法の各手順について理解する。	c	ファイルやワークシート (振り返り等)

計 35 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・授業開始前に教科書、ノートを準備し、授業者の説明をしっかりと聞く態度を身につけることを目指します。
- ・板書をきちんとノートに写す態度を身につけること、保健用語の理解と読み書き取りの習得を目指します。
- ・現在及び将来の生活において、健康及び安全の課題に直面した場合に、的確な思考、判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動選択できる能力の習得を目指します。

7 担当者からの一言

保健ではこれまでの人生で一度は聞いたことがあったり、学んだりした事柄をより深く学習します。したがって、取り組みやすい科目とも言えます。また「知っていること」と「やれる・できること」は違います。特に、感染症と健康の関係を学び、正しい意志決定と行動選択がとれるようにしましょう。また、より理解を深めるために、事前に学習するページを読んでおくことが必要です。

(担当：飯田 拓郎)

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	教育出版『音楽Ⅰ Tutti+』				
副教材等					

1 学習目標

音や音楽が醸し出す良さや美しさを感じ取り、幅広い活動を通して個性を生かしながら表現したり鑑賞したりする力を育成することを目指す。

- (1) 思いや意図を持って、表現活動・鑑賞活動をさせるようにする。
- (2) 音や音楽を知覚・感受して、思考や判断し表現する活動を通し、創造的な力を育む。
- (3) 生活や社会とのかかわりを考え、音環境への関心を高めるとともに、音楽の知的財産権を尊重するようにする。
- (4) 文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉え、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。

2 指導の重点

生涯にわたって主体的に音楽を愛好していこうとする心情の育成に努めるために、

- ① 日ごろ親しんでいる音楽だけでなく、日本や世界の様々な音楽を幅広く体験させる。
- ② 発声法を学ぶとともに、歌詞の内容や背景と関わらせた曲想をイメージした歌唱表現を目指す。
- ③ さまざまな楽器に親しみ、その基礎的な奏法を身に付け器楽演奏をする。
- ④ 音楽を形作っている諸要素や歴史的背景を学び、それらが楽曲をどのように特徴付けているかに気づき、創造的な表現や鑑賞活動に繋げる。
- ⑤ 自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考えさせる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に必要な体の使い方や発声方法を身につけようとしている。 ・器楽演奏に必要な奏法を身につけようとしている。 ・音楽を形作っている諸要素や歴史的背景を学び、理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作る諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、身につけた演奏技術を用いて、表現意図を持ち演奏しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような楽曲やどのような課題に対しても、広い視野を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に必要な体の使い方や発声方法を身につけようとしている。 ・器楽演奏に必要な奏法を身につけようとしている。 ・音楽を形作っている諸要素や歴史的背景を学び、理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作る諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、身につけた演奏技術を用いて、表現意図を持ち演奏しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような楽曲やどのような課題に対しても、広い視野を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ① 歌唱実技テスト ② 楽器演奏実技テスト ③ ペーパーテスト ④ レポートなど提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ① 授業中の取り組みの観察と実技テスト ② ペーパーテスト ③ レポートなど提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ① 授業中の取り組みの観察と実技テスト ② ペーパーテスト ③ レポートなど提出物 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 ～ 5	芸術音楽で学習すること	1		・中学校までの音楽の授業内容を確認し、これから1年間で取り組む内容を理解する。		
	体の使い方と発声法	4	・校歌 ・J-pop	・基礎発声練習や親しみやすい J-pop を用いて体の使い方を考える。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	楽譜を読む①	3	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。 ・編曲をして創作する。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
	リコーダーに親しむ	4	・ペツォールトのメヌエット	・今まで慣れ親しんできた学期で協働的に音楽に親しむ。	a, b, c	①, ②, ③ グループ発表
6 ～ 7	日本歌曲 ～日本語の美しさを感じ取る～	4	・浜辺の歌	・歌詞の内容、曲想に合わせた発声などを考える。 ・旋律、速度、強弱を知覚し、自ら味わった表現を考える。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	ハーモニーを奏でる	4	・パツヘルベルのカノン	・カノンという形式の特性を生かした演奏をする。	a, b, c	①, ②, ③ グループ発表
	ミュージカルの鑑賞	2	・ミュージカル作品	・協働的に音楽活動に取り組む。 ・鑑賞を通し、歌唱とは、表現とはどのようなものか考え、作品を味わう。	a, b, c	①, ②, ③ レポート提出
	楽譜を読む②	2	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
9 ～ 10	ミュージックバルに親しむ	14	・Jupiter	・協働的に音楽活動に取り組む。 ・学期の特性を理解した演奏を目指す。 ・楽興行事でもあるフェスティバルに参加することで、達成感や人前で演奏する喜びを味わう。 ・練習創作をすることで仲間との連帯感や責任感を養う。	a, b, c	①, ②, ③, ④ レポート提出 グループ発表
11 ～ 12	イタリア歌曲に触れる	5	・Santa Lucia	・曲想と音楽の構造や、歌詞とのかかわり、言葉の特性を理解する。	a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト
	クラシックギターを弾こう	8	・練習曲教材	・曲にふさわしい体の使い方や発声法、言葉の発音などの技能を身に付ける。 ・独奏曲を練習し、基本的な奏法を身に付ける。	a, b, c	①, ②, ③ 演奏発表
	楽譜を読む③	3	・副教材	・楽譜に関する知識を養う。	a, b, c	①, ②, ③ ペーパーテスト
	オペラ鑑賞	2	・魔笛	・鑑賞を通し、歌唱や表現とはどのようなものか考え、作品を味わう。	a, b, c	①, ②, ③ レポート提出
1 ～ 3	篠笛をふこう プレゼン形式での発表	8 6	・篠笛の本 ・インターネット等	・和の心を感じ、西洋音楽と響きの違いを養う。 ・自分の好きな音楽のジャンルを深掘りすること、メディアリテラシーや人前で発表することで、今後の社会生活を考える。	a, b, c a, b, c	①, ②, ③ 実技テスト ①, ②, ③ ペーパーテスト 個人発表

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・実技系の単元ごとに、実技テストや発表を行う。
- ・学期ごとにそれまでの学習内容に関するペーパーテストを行う。
- ・レポートや作品を課した単元は、それを提出する。

7 担当者からの一言

高校では、教科名「芸術」科目名「音楽」となります。
中学校までの音楽で学んだことを生かしながら前向きに、そして楽しみながらレベルアップを目指して一緒に取り組んでいきましょう。
(担当：小黒 朝子)

教科(科目)	芸術(美術 I)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術 1』				
副教材等					

1 学習目標

- 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
 - (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発送し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
 - (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ①美術表現技法の基礎知識に関する学習、および課題制作によって、美術表現の知識と技術を育成します。
- ②教材による美術鑑賞によって、美術の歴史や文化に関する知識を深めることを目指します。
- ③机間巡視を行い、各々の作業進捗度に合わせた指導をすることで、課題に取り組みやすくすることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技課題 ・提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組みの観察 ・実技課題 ・提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組みの観察 ・実技課題 ・提出物 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	オリエンテーション	2	教科書、鉛筆	授業での注意事項、道具の扱い等の説明。	c	授業の取組
	デッサン	6 絵画・彫刻	教科書、画用紙、鉛筆	自画像を鉛筆描写で描く。	a, b, c	課題提出、授業の取組
5	色彩の基礎	2 絵画・彫刻	教科書、アクリルガッシュ	色彩についての基礎を学ぶ。	a, b, c	課題提出、授業の取組
	絵の具の技法	2 絵画・彫刻	アクリルガッシュ	絵の具の技法を学ぶ。	a, b, c	課題提出、授業の取組
6	シンボルマーク	2 デザイン	教科書、アクリルガッシュ	文字と図を組み合わせてデザインする。	a, b, c	課題提出、授業の取組
7 ～	美術鑑賞	2 鑑賞	教科書、DVD	教材による美術作品の鑑賞を行う。	c	授業の取組
9	地元のマスコットキャラクター	16 デザイン	教科書、粘土、アクリルガッシュ	地元について調べてマスコットキャラクターをデザインする。	a, b, c	課題提出、授業の取組
10 ～ 12	木彫	22 絵画・彫刻	教科書、木材	身近な道具を彫刻で制作する。	a, b, c	課題提出、授業の取組
1 ～ 3	展示会ポスターをつくろう	16 鑑賞 デザイン	教科書、鉛筆、色紙	作品・作家について調べてポスターを制作する。	a, b, c	課題提出、授業の取組

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各課題制作物
- ・アイデアスケッチ

7 担当者からの一言

美術の基礎的な知識や技術を身に付けることを前提に、各々が持つ感性を引き出せるよう指導していきたいと思
います。授業の中で美術表現の楽しさを味わってもらい、美術や美術文化への興味・関心の向上を図ります。

(担当：松崎 恭子)

教科(科目)	芸術(書道 I)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京書籍『書道 I』				
副教材等	教育図書『ペン習字の基礎』				

1 学習目標

書道の幅広有為活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・毎時間の目標にしたがって作品を制作し、提出できるようになることを目指す。
- ・机間巡視による個別指導で、基礎的用筆法・技術の習得を目指す。
- ・自己評価カードにより古典の鑑賞・理解を深めるとともに、作品制作に対する反省点を把握し、意欲を引き出すことを目指す。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統や文化と豊かに関わり自主的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統や文化と豊かに関わり自主的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習の記録」による学習過程 ・「学習のまとめ」の内容 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・活動の様子 ・「学習の記録」による学習過程 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習のまとめ」の内容 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子 ・提出作品 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習記録」による学習過程 ・鑑賞カード <p>などから、評価します。</p>

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	書写から 書道へ	4 オリエンテーシ ョン 用具用材	用具用材 姿勢特筆 方	・先人の作品から、信条や人間性を汲 み取る。 ・筆の持ち方や姿勢について。 ・具用材の特性を知り、表現の違いを 知る。	b c	鑑賞レポート ワークシート 提出作品 学習記録
5	漢字の書	16 ・楷書の用筆、 字形 ・古典の基本的 な点画、表し方	九成宮醜 泉 孔子廟堂 碑	・基本的書道用語、漢字の成立と変遷 について理解する。 ・楷書の特徴を知り、用筆、字形の取 り方を理解する。	a b	提出作品 学習記録 ワークシート 学習活動の様子
6			孟法子碑 造像記	・「造像記」の方形に構えた字形を基に 刻字を制作する。	a b c	制作カード 学習活動の様子 学習記録
7	創作をし よう(楷 書)鑑賞	8 楷書創作 (2~3字)	楷書 (2字)	・採択の技法を知る。	b	制作カード 学習活動の様子
9	行書の古 典を学ば う	6 古典の基本的な 点画、表し方	蘭亭序	・古典の特徴や技法を生かして制作す る。 ・行書を知り、行書の特徴を理解する。 ・行書の用筆、字形のとり方について 理解する。	b c a	制作カード ワークシート 学習活動の様子 提出作品
10	創作をし よう(行 書)鑑賞	6 行書創作 (四字熟語)	風信帖	・「風信帖」と空海について知る。 ・「風信帖」を臨書する。	a	提出作品 ワークシート 鑑賞レポート
11	篆刻、刻字 をしよう	14 ・篆刻 ・刻字	姓名印	・落款印について知る。 ・篆刻の用具・材料や手順を知り、姓 名印を制作する。	a	制作カード 学習活動の様子
12			造像記			b
1	仮名の書 に親しも う	6 ・仮名の用筆 ・単体、連綿綯、 臨書	仮名の基 本線 いろは 高野切第 三種	・仮名の成立や仮名の種類について理 解する。 ・仮名の基本的な線、運筆について理 解し、練習する。 ・いろは帖の作成	a	
2	生活の中 の書 漢字仮名 交じり文	10 ・構成の工夫、形 式 ・漢字仮名交じ り文	形状	これまで学んだことを日常に生かす。		
3			礼状 のし袋			

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

- ・毎時間学習内容は「学習記録」に記録し、課題に応じて作品制作カード、および学習成果(作品)を提出する。
- ・制作にあたり、どのようなことを表現、工夫をしたかを作品制作カードに記録していく。
- ・学習成果(作品)提出前に書いたもの(試書)などをファイルしておく。
- ・単元ごとに、「学習記録」・ファイル・試作カードとともに「学習のまとめ」を行い、自己評価する。
- ・自分の作品や友人の作品に対する鑑賞がどのように深まっていったかを、鑑賞カードなどを用いて確認する。

7 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習の取り組みをしてください。
- ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に活かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道Ⅰ」の学習を通して、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。
(担当：関 加代子)

令和5年度シラバス（外国語） 学番 39 新潟県立正徳館高等学校

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	4単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『Power On English CommunicationⅠ』				
副教材等	東京書籍『Power On English CommunicationⅠ Workbook』 カシオ電子辞書 東京書籍『フェイバリット英単語・熟語 コーパス 1800 語 3rd Edition』 東京書籍『フェイバリット英単語・熟語 コーパス 1800 語 チャンクマスター workbook 1』				

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指し、外国語の知識を実際の目的や場面、状況などに応じて適切に活用し、概要や意図を理解したり、表現したり伝えあったりすることができる資質・能力を一体的に育成する。また、その過程を通して、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度、資質を育成する。

2 指導の重点

- ①積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。
- ②中学校既習事項を含め、基本語彙、基本文法の定着を目指します。
- ③英語の基本的なルールを学び、情報や考えなどを的確に理解する力を育てます。
- ④話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝える力を育てます。
- ⑤説明や物語などを聞き手に伝わるように音読できる力の習得を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めているとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めているとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・言語活動の取り組み状況の観察 ・課題や提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、パフォーマンステストの分析 ・言語活動の取り組み状況の観察 ・ワークシートや提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・パフォーマンステストの分析 ・ワークシートや提出物、振り返りシーートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	Pre L1-5 Lesson 1	12	Japan's New Tourism	・現在・過去・進行・助動詞の意味、用法を理解し、観光や地域の特色に関し情報や考えを伝える。 ・自分が住む街の魅力を紹介する。	a b c	課題考査 中間考査 単語テスト 発表
5	Lesson 2	12	Light from Creatures	・受け身、現在完了、現在完了進行の用法を理解し、光る生き物の特徴や利用法について情報や考えを伝え合う。	a b、c	課題提出 授業の取組
6	Lesson 3	15	Routes to the Top	・動名詞、不定詞、S+V+O [that 節] の文の用法を理解し、使う。 ・好きなスポーツ選手について、理由や情報、考えを伝えあう。	a b c	期末考査 課題提出 単語テスト パフォーマンス
7	Lesson 4	12	Left to Right, Right?	・後置修飾の現在分詞、過去分詞、比較級・最上級を理解、利用する。 ・マンガの形式について、比較しながら情報や意見を述べる。	a b、c	テスト 授業の取組
8 9	Summer Reading Lesson 5	20	Mama's Bank Account Banana Paper	・文や段落の繋がりを理解し、登場人物の心情や物語の状況をとらえる。 ・関係代名詞(主格、目的格)を理解し、環境やバナナペーパー販売促進について情報や考えを伝え合う。	a、b a b c	課題テスト 中間考査 課題提出 単語テスト 授業の取組
10	Lesson 6	12	Patterns in Human Behavior	・It+be 動詞+形容詞+that 節、S+V+C、S+V+O+C [形容詞] ・人間の行動や心理について情報や考えを伝える。	a b c	
11	Lesson 7	15	No Plastic or No Future	・関係副詞 where、when、関係代名詞 what の用法を理解する。・プラスチックごみや海洋汚染について理解し情報や考えを伝え合う。	a b、c	期末考査 課題提出 単語テスト
12	Lesson 9	12	Oh My God!	・分詞構文、関係代名詞非制限用法、過去完了の文を理解し、食料資源や漁獲量の現状について情報や考えを伝える。	a b c	パフォーマンス テスト 授業の取組
1	Lesson 9	12	Is E-sports a Real Sport?	・知覚、使役動詞を用いた文、if 節を用いた文を理解し、利用する。 ・e スポーツについて情報、考えを伝える。	a b c	課題テスト 学年末考査 課題提出
2	Lesson 10	10	Being Different Is Beautiful	・仮定法過去を用いた文の理解し、写真家の経験やその過去、現在について伝える。	a、b c	単語テスト パフォーマンス
3	Optional Reading	8	THANK YOU, ICHIRO.	文や段落の繋がりを理解しながら、手紙の筆者の意図や感情を捉える。	a b	テスト 授業の取組

計 140 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

・課題 (長期休業中や単元について)、ノート、プリント、ワークブック等の提出があります。週 1 回単語テストを行います。

7 担当者からの一言

英語コミュニケーション I では、中学校で身につけた基礎的な能力を発展させていくことを目標にしています。朝学習や授業、家庭学習を通して総合的に単語力・文法力・語彙力の向上を図り、英語を使って積極的に表現しようとする態度を身につけることを目指します。(担当: 山川みゆき、柿崎新世)

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版『図説 家庭基礎』				
副教材等					

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 指導の重点

- ・自分、家庭、家族の大切さを学習し、家庭生活と職業生活のあり方について考え、認識させる。
- ・子どもの育つ力のすばらしさ、乳幼児期の発達の特徴が人間の発達の基礎となることを認識させる。
- ・高齢者の生活と現状を理解し、支える福祉のあり方、介助の方法を考え、理解させる。
- ・食べること、栄養、食品の特性と発展させて理解できるようにし、調理について基本的な技術が身につくよう指導し、ホームプロジェクトも実施する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにしている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養おうとしている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにしている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養おうとしている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・提出物の分析 ・ペーパーテストの分析 ・実習の様子 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物の分析 ・ペーパーテストの分析 ・実習の様子 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組 ・実習の様子 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	第1編 第1章 自分らしい生き方と家 族	5	教科書 プリント	・生涯発達をライフステージごとに理解し、生活設計に ついて考える ・ホームプロジェクトを日常生活の中で意識する ・学校家庭クラブ活動	c	授業の取組
5		8			a, b, c	プリント提出
6	第2章 子どもとかわる わる	7	教科書 プリント	・子どもの身体の成長発達の特徴を理解し、発達段階や 個性に応じて保育のあり方について知る ・子育ての環境、社会、福祉について知る ・ホームプロジェクト課題	c	授業の取組
7		4			a, b, c	プリント提出
	定期考査	1			a, b	
9	第3章 高齢者とかわる わる	7	教科書 プリント	・高齢者の心身の特徴、生活を知り、課題について考 える ・社会保障制度や社会支援について理解する ・社会福祉結愛障害を通しての社会保障制度のしくみ について、現在の生活課題と関連させながら考えるこ とができる	c	授業の取組
10	第4章 社会とかわる わる	8			a, b, c	プリント提出
11	第2編第1章 食生活を作る					
12	第1章 食生活を作る	7	教科書 プリント	・現代の食生活の問題点について、各自分析し自らの食 生活について考える ・調理実習(4回) ・身近な生活から課題を見出し、解決方法を考え計画実 践反省評価をおこなう ・ホームプロジェクト課題	c	授業の取組
		4			a, b, c	課題提出
	定期考査	1			a, b	
1	第2章 衣生活をつくる	6	教科書 プリント	・被服の機能や材料を知り、選択や管理の仕方を考える ・住まいの機能を理解する ・ライフスタイルや家族構成と住まいのかかわりを知 る ・循環型社会の形成に向けて、身近な環境保全活動を考 える ・自分の自己実現のためのライフプランを設計する	c	授業の取組
2	第3章 住生活をつくる	7			a, b, c	プリント提出
3	第3編第1章 消費行動を考える	4			a, b, c	実習態度
	第2章 経済的に自立する					
	定期考査	1			a, b	

計70時間(50分授業)

6 課題・提出物等

- ・調理実習後には、調理実習の記録を記入し提出してもらいます
- ・それぞれの単元ごとにまとめのプリントをして提出。夏季・冬季休業の際にホームプロジェクト課題提出の予定

7 担当者からの一言

生活の自立に必要な知識や技能を身につけるだけでなく、さまざまな体験や情報を自身の生活と照らし合わせて考え、生活設計をたてていくことができるように実践できる力を、この家庭基礎でつけてほしいと思っています。
(担当：大倉 とも子)

教科(科目)	情報(情報 I)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版『最新情報 I』				
副教材等	実教出版『最新情報 I 学習ノート』				

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 指導の重点

- ・目的に応じた手段を適切に選択し、情報を収集・処理・発達・伝達できるようになることを目指します。
- ・情報モラルなど情報社会で生きるために必要な知識を身につけられるようになることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めようとしている。	・様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養おうとしている。	・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めようとしている。	・様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養おうとしている。	・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
---	-----	----------	-----	------------	-----------	------

4	第1章 情報社会と私たち	10	情報社会	情報社会と情報 情報の特性 情報のモラルと個人に及ぼす影響		
5			情報社会と法規と権利	知的財産 情報の利用と公開 個人情報の保護と管理		
6	第2章 メディアとデザイン	10	情報技術が築く新しい社会	社会の中の情報システム 情報技術と課題解決	a, b	実習内容や提出物の分析
7			メディアとコミュニケーション	メディアの発達 メディアの特性 コミュニケーションの形態 インターネットのコミュニケーション	c	振り返りシートの分析
7			情報デザイン	社会の中の情報デザイン 情報デザインの工夫		
7			情報デザインの実践	文書の作成 プレゼンテーション Webページ		
	定期考査	1			a, b	定期考査や提出物の分析
8	第3章 システムとデジタル化	10	情報システムの構成	コンピュータの構成と動作 ソフトウェアとインタフェース	c	振り返りシートの分析
9			情報のデジタル化	アナログとデジタル 2進数と情報量 演算の仕組み 数値と文字の表現 数値の計算 音声と表現 静止画と動画の表現 情報のデータ量		
10	第4章 ネットワークとセキュリティ	9	情報通信ネットワーク	ネットワークの構成 情報通信の取り決め Webページとメールの仕組み	a, b	実習課題や提出物の分析
11			情報セキュリティ	転送速度とデータ圧縮 脅威に対する安全対策 情報セキュリティの確保 安全のための情報技術	c	振り返りシートの分析
12	定期考査	1				定期考査や提出物の分析
	第5章 問題解決とその方法	20	問題解決	問題解決 問題の発見 問題の明確化 解決案の検討 解決案の決定 解決案の実施と評価	a, b	分析
1			データの活用	データの収集と整理 データ分析と表計算 データの可視化 データ分析の手法	c	振り返りシートの分析

2	定期考査	1	モデル化 シミュレーション	データベースとは モデル化とシミュレーション モデルの分析 モデル化の手順 モデル化の手法 モデル化をする時の注意 シミュレーションの実際 モンテカルロ法 モデル化とシミュレーションによる問題 解決		
3	第6章 アル ゴリズムとプ ログラミング	8	プログラミン グの方法 プログラミン グの実際	アルゴリズムとその表記 プログラミング言語 プログラミングの方法 関数を使用したプログラム 探索と整列のプログラム	a, b c c	定期考査や提出物の 分析 振り返しシートの分 析 振り返しシートの分 析

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 実習課題の指示をするので、その都度、課題を提出してもらいます。
- ・ 課題の発表の機会があります。発表の様子も評価の対象となります。

7 担当者からの一言

情報活用の実践力を身につけるため、実習も行いますが、情報モラルなど情報化社会で生きていくために必要な学習も行います。将来にわたり必要な知識や技術が身に付けられますので、意欲的に取り組んでいきましょう。
(担当：石本あゆみ)